<table>
<tr><th>ISO26000
中核主題</th><th>目標</th><th>結果</th></tr>
<tr><td rowspan="4">組織統治/
社会的責任の認識と組織全体への統合</td><td>全社・グループ企業に対し次の活動に取り組む</td><td></td></tr>
<tr><td>● CSR/SDGs の周知･浸透の継続取組み</td><td rowspan="3">● サステナビリティ推進規程制定に伴い、環境関係規定規則を統合。
● サステナビリティ推進部によるサステナビリティ情報の発信。

1. 社内ポータルサイトにサステナビリティ推進部のサステナビリティ情報ページを新設。
2. サステナニュース掲載。
3. コーポレートサイトを CSR からサステナビリティに変更し、内容を充実させた。
4. 社内報はばたきにサステナビリティ特集を掲載。

● GHG 排出量削減の取組みを全社レベルで開始。

1. GHG 排出量把握に向けた社内研修会を実施。
2. 各拠点の GHG 排出量算定を実施。

♦Scope1、Scope2　2018～2021 年度分の収集完了

♦Scope3　2021 年度分の収集内容を精査中

● サステナビリティに関するマテリアリティの選定の取組みを実施。

1. 経営層向けサステナビリティのマテリアリティに関する研修会を実施。
2. サステナビリティ推進ボードでマテリアリティ選定を完了。
3. マテリアリティに係るワーキンググループで取組み項目を検討。</td></tr>
<tr><td>● SDGs 実施に向けての取組み</td></tr>
<tr><td>● 情報セキュリティへの意識</td><td>● グループ全役職員を対象とした情報セキュリティ研修を 2022 年 6 月と 2023 年 2 月に実施。</td></tr>
</table>

	レベル向上のための教育の継続実施	● 情報セキュリティ内部監査員を対象とした研修を 2022 年 6 月に実施。 ● 情報セキュリティ運用に係わる担当者を対象とした研修を 2022 年 3 月に実施。
	• 情報セキュリティにおける内部監査の実施	• 各事業部、国内グループ会社を対象とした情報セキュリティ内部監査を 6 月 30 日から開始、期末までにすべて完了。
	委託先に対しての取組み・活動 ● 委託先への CSR 周知及び浸透状況確認の継続実施 ● 委託先の SDGs 活動状況の確認の実施	● 主要委託先合計 50 社に対し、CSR アンケート 2022 の回答を依頼した。 ● CSR アンケート 2022 の回答結果のうち点数が低い項目に対し直接委託先へ改善・対策を講じるよう協力を依頼した。 ● 各委託先における 2022 年度 CSR 活動状況を取りまとめ、委託先へフィードバックを展開した。
人権	● 社内及びグループの人権リスクを網羅的、体系的に把握・分析するために、人権デューデリジェンスの実施に関する検討を開始	● 社内及びグループの人権リスクを網羅的、体系的に把握・分析するために、人権に関する主要な国際ルールやフレームワークに照らし、企業が配慮すべき主要な人権及び企業活動に関連するリスクの項目(25 の分野)について、アセスメントを実施した。
労働慣行	ワークライフバランスのさらなる推進	
	● 年次有給休暇の取得促進	● 2023 年 3 月末時点の管理職を含めた全従業員が 100%の年休取得達成。

	年休取得 8 日以上(管理職を含めた全従業員 100%取得)	*育休、産休者及び当年年次有給休暇の付与日が 10 日未満の従業員を除く *他社出向者は、出向先に準じるため対象外
	• 柔軟な働き方を支援するための企業内サテライトオフィスの設置	• 調布にサテライトオフィスを設置。社内ポータルサイトにて周知。
	• 時間外労働時間の削減 労使による時間外労働時間削減協議会の継続計画に基づく時間外労働時間管理の徹底	• 労使間で定期的に行っている時間外削減協議会では事業部の抱えている諸問題等に対し、支部でも会社側と協議できる場を設けるなど、より実態に即した運用・開催を実施。 • 勤怠システムを活用した管理の徹底。
	• 女性活躍推進 女性の役職者(主任以上)の割合を 8%以上とする	• 2023 年 3 月 31 日時点で主任以上の割合が 9.22%と目標を達成。
	• 次世代認定マーク（くるみん）取得 2021～2022 年度にかけて「くるみん」の認定取得に向けた取組みを行い、2023 年度の申請を目指す	• 概ね達成できる見通し、予定通り 2023 年度に労働局に申請する。
	• 労働災害の撲滅	• 2022 年度は業務災害 6 件、通勤災害 9 件発生。 (2021 年度は業務災害 6 件、通勤災害 5 件) • 各拠点から寄せられたヒヤリハット情報合計 5 件を安全衛生

		委員会を通して事例紹介し、類似災害防止の注意喚起の実施。 1. フォークリフトの接触事象（物損で留まった） 2. 排水溝ふたのガタつきによる転倒事故の危険性 3. 豪雨による天井パネルの崩落、漏電の危険性 4. 死角のある通路での出会い頭の衝突の危険性 5. 電気ポットコンセントの不適切な扱いによる感電の危険性 • 災害報告を受領次第、速報として社内ポータルサイトに公開し全社への周知を行った（12 件）。 • 閲覧者から寄せられたコメントを、災害発生事業場にフィードバックし、対策のヒントとして活用した。
環境	• エネルギー使用量の 2021 年度比 1%以上の削減	• 2022 年度実績（1,896.3kℓ）は、前年度（1,976.1kℓ）比 4.0%減少し目標値（1%以上削減）を達成。 照明設備を LED 設備への入替（1,510 台）。 不使用時の設備の電源 OFF。 エアコンの適切な温度設定など。
	• 水使用量の削減	• 2022 年度実績（36,180 ㎥）は、前年度（35,951 ㎥）比 0.6%増加。 原因としては、作業量が増加したため。 節水などの省資源活動。
	• 廃棄物総排出量の削減	• 2022 年度実績（478.3ｔ）は、前年度（667.7ｔ）比 28.3%減少。 廃棄物の分別の徹底などの省資源活動。
公正な事業慣行	• コンプライアンス研修の全役職員受講によるコンプライアンス規範	• ジャムコの全役職員及び国内グループの全役職員に対するコンプライアンス研修を実施し、コンプライアンス規範を周知・徹底。

	の周知・徹底	
	• コンプライアンスホットライン制度のグループ内での拡充	• ジャムコアメリカ及びジャムコフィリピンにも、コンプライアンスホットラインの社外窓口を設置し、グループ全体のコンプライアンスホットライン制度の拡充を行った。
	• グループ全体に関連する重要な法令改正の周知・徹底	• 契約担当者に対し、腐敗防止、下請法、及び、契約の基礎知識に関する研修を実施、これらに関する重要な法令改正を含めた事項を周知・徹底。
消費者課題	• 安全管理体制及び品質保証体制の基盤構築及び継続的な改善	• ジャムコグループの安全と品質の強化に向けて、安全管理体制と 品質保証体制の全社基盤構築を行うため、2022 年 4 月に安全推進統括部(General safety promotion dept)と品質企画部(Quality planning dept)を新組織「安全品質統括部」(Corporate Safety & Quality dept)に統合。以下の継続的な改善を行い、安全文化の醸成、品質向上活動を推進した。 1. 安全部門と品質部門の本社組織を統合し、ジャムコグループ全体にわたり、安全と品質の活動を統括する活動を行った。 ①ジャムコグループ内の安全部門と品質部門が週次並びに月次で情報共有する会議を運営し、ジャムコグループ内の情報共有を徹底し、安全情報や品質課題への対応を行った。 ②発生した事案の早期報告、事案のリスク評価、必要に応じた即時処置を実施し、運用改善を行った。 ③ 安全・品質マネジメント監査を年間計画に基づき実施。各組織にて確認された不適合などは期限管理を行い、適切な処置を実施した。 ④ 全社の安全・品質マネジメントレビュー を同時開催にて運営し、安全推進や品質向上に向けたレビューを行うことで、確実なアウトプットを図った。

		2. 品質保証体制の強化に向けて以下の検討を実施した。 ①ジャムコグループ全社の AQA（Advanced Quality Assurance)推進に必要な品質保証システムの合理化、適切な検査体制の制度設計の実現のため、作業者自主確認<OSV (Operator Self Verification)>プログラムを導入する。2022 年度は、作業者自主確認<OSV (Operator Self Verification)>プログラムの導入に向け、作業者の意識向上のための教育計画、資料作成、制度設計をおこなった。 ②教育・訓練ワーキング・グループを立ち上げ、全社の共通教育について見直しを行い、入社時から中堅世代までの知識付与や意識付けについて整理を実施した。 ③ジャムコグループで発生した製品不適合事案等について 「事案管理表」 にまとめたデータベースを構築し、社内ポータルサイトに公開し、誰でも情報共有できる体制を作った。更に、確実かつ効率的に業務をするために身につけるべき“基本的な心構え”と、それに伴う“動作”をまとめた 「ベーシックマナー集」 を見直し、社内ポータルサイトに公開した。 3. ジャムコグループの安全文化の醸成と品質意識の向上に向け、安全品質向上月間を 2022 年 9 月に開催した。 • ①コミュニケーションの活性化と気付きの向上に向けて「J-Assertion 活動」をキックオフ、アサーションでの気付きから、更に感謝する証しとして、「いいねプロジェクト」を全社へ展開した。 ②安全キャラバンによるダイレクトトークにて、役職員の声を聞き、安全への意識付けを行った。 ③9 月の安全品質向上月間ののち、10 月に安全意識調査アンケートを実施した。昨年度と大きな変化はなかったが、各組織の特徴にあわせ、安全意識向上への施策を今後展開する。
コミュニティへの参画/	全社・グループ企業における地域社会貢献活動の推進	• ジャムコ各拠点、グループ会社の社会貢献活動の実態把握を実施した。 • ジャムコグループの社会貢献活動の情報共有、取組み参考事例のフィードバックを実施した。

及びコミュニティの発展		• サステナビリティの 7 つのマテリアリティのひとつに「社会・地域への貢献」を選定した。 • 2023 年度に向けて、「良質な雇用環境の提供と社会貢献活動を通じてコミュニティの発展に貢献し、社会との信頼関係を構築する」という目指すべき姿を設定した。 • 社会貢献活動 1. 絵本を届ける運動 日本語の絵本を発展途上国の言葉に翻訳し、現地の子どもたちに寄付。 2. 多摩地区森林保全活動実施 3. フードドライブの実施 従業員より自宅の食料品を取りまとめ立川市のフードバンクに寄付。 4. 使用済み切手寄付の活動 発展途上国の子どもたちへ無償でワクチン接種をする NPO に対し、回収した使用済み切手を寄付。 5. キャップの貯金箱推進ネットワークの活動 2022 年 6 月、10 月、2023 年 3 月の 3 回にわたり実施。11 人分のワクチンに相当する、9,506 個のキャップ（重量:22.11 kg）を取集した。又、ペットボトルキャップのリサイクルにより、CO2 換算 69.65 kgの削減にもつながった。 6. 武蔵野の森公園の落ち葉拾い 2022 年 12 月 16 日武蔵野の森公園で実施し 10 名が参加した。 7. 外部清掃活動 会社周辺の清掃活動を月 3 回実施。会社の駐車場や最寄りバス停からの通勤経路等、社員が利用する道路周辺を中心に実施すること

		で、社員の環境意識の醸成も推進した。 8.　献血 航空機機器製造事業部（東京都三鷹市）における献血への協力対応。2022 年 7 月 11 日に 30 名、2023 年 2 月 7 日に 19 名の献血者数となった。